

2024年度 第30回 FD・SDフォーラム  
シンポジウム1「FD×SDで向き合う新しい学び」

2025.3.1@龍谷大学深草キャンパス

キャンパスから自由になる大学の学び  
—ミネルバ大学の事例を中心に—

松下 佳代

京都大学大学院教育学研究科  
matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

# 本日のトピック

- キャンパスから自由になる学び

- ≠通信制大学(オンライン大学)

- 学びの場として、キャンパス・教室という空間には囚われない
- だが、「場所に根ざした教育(place-based education)」はむしろ重視

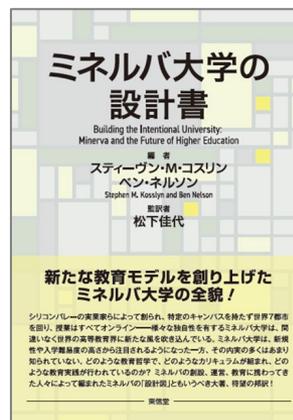
- 主な事例としてのミネルバ大学

- 授業はフルオンライン ≠オンライン大学
- キャンパスはもたず、世界7(4)都市を移動しながら学ぶ  
=「都市をキャンパスに」
  - どんな学びが展開されているのか？
  - そこでの教員と職員の役割は？



Kyoto University Graduate School of Education  
Higher Education Studies Course

# ミネルバ大学ってどんな大学？



□ コスリン, S. M. & ネルソン, B. (編) (2024) 『ミネルバ大学の設計書』(松下佳代監訳) 東信堂.

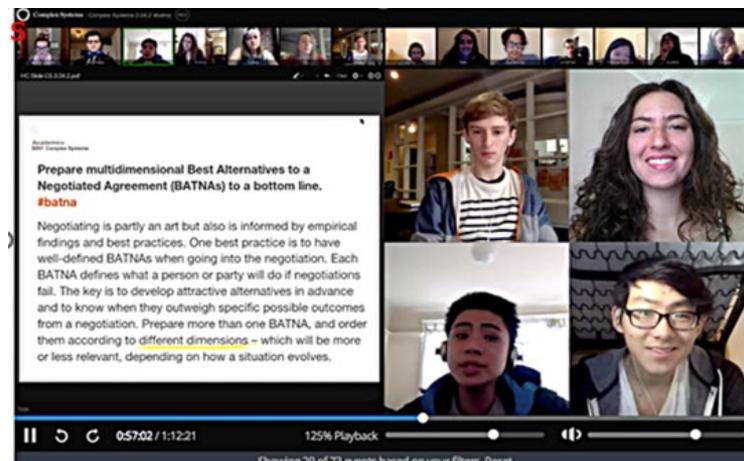
□ 松下佳代 (編) (2024) 『ミネルバ大学を解剖する』 東信堂.

# ミネルバ大学 (Minerva University)

## ● ミネルバ大学 (2012年設立、2014年開校)

「世界で最もイノベーティブな大学」(2022～2024)

- アメリカの小規模リベラルアーツ大学 (1学年150名程度)
- 世界の7都市を移動しながら学習
  - SF→ソウル・ハイデラバード→ベルリン・ブエノスアイレス→ロンドン・台北
  - \* 近く、4都市に変更 (SF・東京+2都市がコア都市に)
- 都市をキャンパスにした活動 (Project-BL、Community-BL、インターンシップなど)
- フルオンラインでの少人数アクティブラーニング (1クラス19人以下)
- 学びの成果と軌跡を可視化する評価
- 世界中に散在する教員、現地に居住する職員
- ユニークなアウトリーチ活動による学生獲得



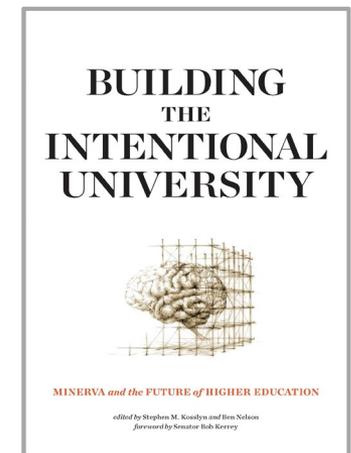
© 2021 - Ari Bader-Natal (<https://aribadernatal.com/projects/Minerva/>)

# ミネルバ大学設立の意図

## ● アメリカの高等教育の抱える問題

- ① 大学が、卒業後の社会や生活に対して**準備できた状態**にまで学生を育てられていないこと
- ② 大学教育があまりに**高額**になり、ほとんどの学生が**負債**を抱えて卒業していること
- ③ 半数以上の学生が卒業できておらず、卒業できたとしても十分、**授業に関与**できていないこと
- ④ **入学者選抜**において、国籍、人種、社会経済的地位、レガシー（卒業生の近親者）など、本人の能力以外の要因で**定員枠**が設けられていること

ミネルバ大学は、  
これらを問題を解決し、世界のリーダーを  
育成するために、  
自分たちの設定した原理・原則にしたがって、  
**意図的に**、ゼロから立ち上げた大学



# 大学のミッションと目標

---

- ミッション
    - 「**世界のために批判的な知恵** (critical wisdom) を涵養する」
  - 最上位の目標
    - **実践知** (practical knowledge) の育成
  - 目標とカリキュラム・学習活動
    - 正課教育 (オンライン授業)
    -  準正課・課外活動 (経験学習)
- } **ハイブリッド学習**

# 正課教育と準正課・課外活動

## 【正課教育】

一般教育  
(1年次)



専門教育  
(2・3・4年次)

汎用的能力  
(コア・コンピテンシー  
→HCS\*)

専門分野の知識・スキル

批判的思考



創造的思考



効果的  
コミュニケーション

約80個

効果的  
インタラクション



人文学

コンピュータ  
科学

自然科学

社会科学

ビジネス

シニア・チュートリアル  
キャップ・ストーリー・プロジェクト



## 【準正課活動・課外活動】

- 世界の7都市を移動しながら、多国籍の学生たちと寮生活
- 正課の授業で習得したコア・コンピテンシーとHCSを、正課の授業だけでなく、滞在都市での多様な他者との協働による準正課活動の中でも活用していく

\* **HCS** = habits of mind & foundational concepts  
(知の習慣と基本的概念)

- 
- **正課授業**  
**オンライン少人数AL**

オンライン  
+ 教師によるコントロール

- **準正課活動**  
**「都市をキャンパスに」**
  - 世界7都市を移動しながら、  
現地でPBLやCBL

身体性、直接経験  
+ 高い自由度

著作権の都合上、当日のみの投影

著作権の都合上、当日のみの投影

# HCSという「汎用的能力」

---

- HCSは**ミネルバの中核**

- 4つのコア・コンピテンシーを具体化したものとして、約80個のHCSを抽出
  - \* たえず更新(当初は114個)

- HCSの例

#correlation (相関関係と因果関係を区別する)

#gapanalysis (創造的な解決がどこで必要とされるのかを明らかにするギャップを特定する)

#algorithms (現実世界の問題を解決するためにアルゴリズム的な方略を適用する)

#audience (文脈や相手にあわせて口頭や文書での表現の仕方を変える)

#nudge (他者の決定を「ナッジ」する)

- どのように学ぶのか？

- 1年次には、**ビッグクエスチョン**を通じて学ぶ

(例)「どうすれば世界の人々に食料を供給できるか？」

- 3年間活用しながら(=転移させながら)、学び続ける

汎用的ではあるが、脱文脈的ではない

Personal		
<b>Thinking Critically</b> (批判的思考)	Evaluating Claims (主張の評価)	#interpretivelens #context #critique #plausibility #testability #estimation
	Evaluating Justification (正当化の評価)	#evidencebased #sourcequality #deduction #induction #fallacies
	Analyzing Data (データの分析)	#descriptivestats #probability #distributions #confidenceintervals #correlation #regression #significance
	Analyzing Decisions (決定の分析)	#psychologicalexplanation #purpose #utility #biasidentification #biasmitigation #expectedutility #decisiontrees
	Analyzing Problems (問題の分析)	#rightproblem #breakitdown #gapanalysis #variables #gametheory
<b>Thinking Creatively</b> (創造的思考)	Facilitating Discovery (発見の促進)	#hypothesisdevelopment #dataviz #modeling
	Applying Research Methods (研究方法の適用)	#observationalstudy #interventionalstudy #casestudy #interviewstudy #studyreplication #controlgroups #sampling
	Solving Problems (問題の解決)	#scienceoflearning #analogies #constraints #heuristics #algorithms #optimization #designthinking

Interpersonal		
<b>Communicating Effectively</b> (効果的コミュニケーション)	Using Language (言語の使用)	#professionalism #thesis #organization #composition #connotation #audience
	Using Nonverbal Communication (非言語コミュニケーションの使用)	#medium #expression #communicationdesign #multimedia
<b>Interacting Effectively</b> (効果的インタラクション)	Interaction Within Complex Systems (複雑系の中でのインタラクション)	#multipleagents #levelsofanalysis #emergentproperties #multiplecauses #networks #systemdynamics
	Negotiating and Persuading (交渉と説得)	#negotiate #nudge #carrotandstick #cognitivepersuasion #emotionalpersuasion #confidence
	Working with Others (他者との協働)	#leadprinciples #powerdynamics #strategies #differences #comformity #selfawareness #emotionaliq #responsibility
	Resolving Ethical Problems (倫理的問題の解決)	#ethicalframing #ethicalconflicts

# HCSのリスト

# 学生の声：HCs(汎用的能力)

## ● ミネルバでの共通言語になっている

他のミネルヴァの学生と一緒に何をするにしても、何をする必要があるかを説明するのではなく、**HCsの名前を伝えるだけで**、どのようなステップを踏む必要があるのか、何に焦点を合わせるべきなのかを**誰もが知ることができます**。

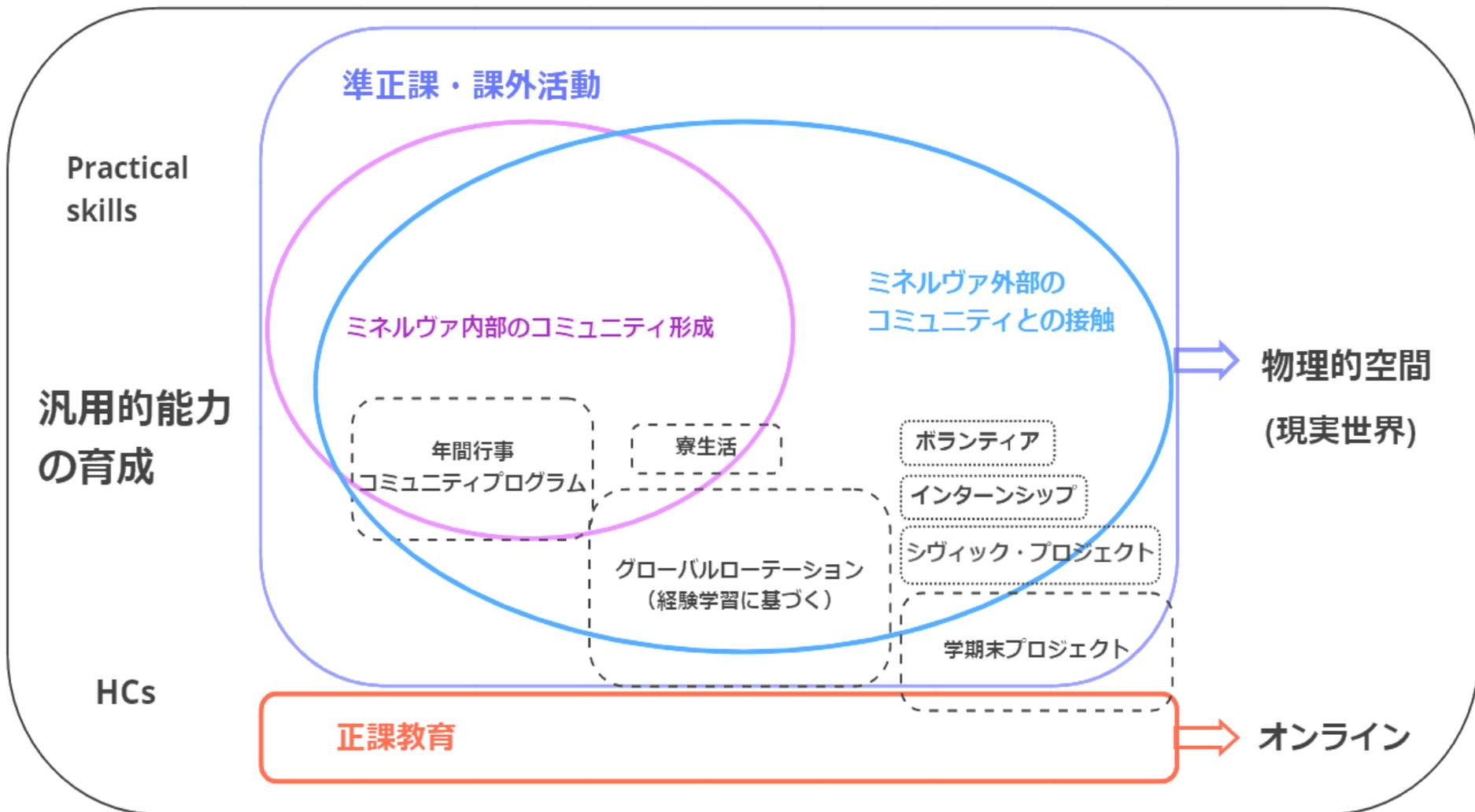
## ● 使いやすさに違いがある

いくつかのHCsは、ある特定のことを、どのように行うかを説明しているだけのものなので、そのようなHCsは授業で本当に適用しやすいです。**データ収集の方法やデータ分析の一般的な方法を説明したHCs**がありますが、これは**非常に適用しやすく**、実行するためのステップを教えてくれるものです。ですが、HCsの中にはとても一般的で、とても意図的に実際に適用しようと思わない限り、専攻コア科目に**適用するのが難しいもの**もあります。

## ● 汎用的とはいえ、専攻(専門分野)との相性もある

私の場合、例えばAH[=人文学]のHCはすごく使いやすく、例えば初対面の人と話すときになって、このオーディエンス(**#audience**)は誰だろうとか、私は何を伝えたいのだろうとか、実際に本当に使えるHCもたくさんあるのですが、CS[=コンピュータ科学]の専攻でないので、**#algorithms**などはすごく使いにくくて…

# ミネルバの準正課・課外活動



# 「都市をキャンパスに」

## ● グローバル・ローテーション

- 2024年度まで: 7都市 → 2025年度から: 4都市 (東京も)

学年	秋学期(9月~1月)	春学期(2月~6月)
1年	米国: サンフランシスコ	
2年	韓国: ソウル	インド: ハイデラバード
3年	ドイツ: ベルリン	アルゼンチン: ブエノスアイレス
4年	英国: ロンドン	台湾: 台北

\* ただし、グローバル・ローテーションはミネルバの専売特許ではない

- LIUグローバル (Long Island University Global College)
  - 滞在都市: 8カ国 (以上) / 現地でインターンシップ、サービスラーニングなど
- Think Global School
  - 3年間で12カ国に留学し、世界を旅する高校 など

# 各都市での経験学習

私たちの学生は、観光客ではなく、**地域コミュニティの積極的な参加者**です。市民的な課題や場所に根ざしたプロジェクトに知識を応用することで、有意義に都市に関わり、貢献するのです。

## ● 経験学習の深化

- **1. 接触** (exposure) : 都市体験への参加 例) エンパナーダづくり
- **2. 関与** (engagement) : 集中的な経験学習プログラム  
例) Genslerで共感研究の方法の学習、デザイナーや建築家との面会・議論
- **3. 没入** (immersion) : 現地の組織に持続的に関わって、重要な問題に対する理解を深める  
例) SF Civic Innovation Officeによる市民プロジェクトへの参加
- **4. インパクト** : 都市パートナーのニーズに応じて成果をあげる  
例) サンフランシスコ都市計画局から依頼された調査プロジェクトの実施

# 学生の声：準正課活動・課外活動

## ● オフラインでの人とのつながり

ミネルバはすごくオフラインのつながりも大事にしてると思います。授業はオンラインで、もうほんとに効率良く知識を与える分、授業外では、もうとことんオフラインでいろんな人と、その場で対人関係を築いてほしいっていうメッセージはよく学校から来ます。

## ● 自分について知る・考える

ミネルバの生活って、やっぱり都市も変わるし周りにいる人もすごく短いスパンで変わるの、自分がどういうふうにあくたしたらいいかっていうのを、各都市ですごく考える必要がありました。日常で自分自身を考える機会がすごく増えるっていうのと、セルフアウェアネスの高い人が周りに多いから私自身も自分自身についてより深く知りたいなと思うことが多いですね。

## ● 多様な価値観が交わる寮生活

寮がなかったら、自分の友達もずっと自分と似た価値観や文化、背景の人とくっつきやすくなってしまうって、どうしても価値観が固定されてしまうことがあると思います。もちろんそちらの方が心地よいのですが、私はそれに制約されたくなくて、だからこそ寮生活のようにみんなが混ざって生活している空間がすごく大事だと思います。

# 教職員に求められるもの：教員

---

## ● ミネルバ大学の教員とは？

- 5つの学部に約50名の教員が在籍
- 専門分野における博士号をもつ学際的な教員
- 1年次のコーナーストーン科目(全員)、2年次以降の専門科目、キャップストーン・プロジェクトの指導などを担当

## ● 世界中から教員を募集

- 適切なタイムゾーンで授業を行えば、世界のどこに住んでいてもよい

## ● テニュアの教員や非常勤講師は存在しない

- 教育専念、3年任期(最長6年) ←雇用流動性の低い社会には合わない

## ● 全員が同じトレーニングを受ける

- 採用時に3週間の「非常に厳しいトレーニング」を受講 =FD
- 授業法、評価法などの学習 → Forum™での実習 → 実践授業／評価実践

# 教職員に求められるもの：職員

---

- ミネルバ大学の職員（例：学生生活スタッフ）とは？
  - 滞在都市に、複数名の学生生活スタッフ＋都市ディレクターが存在
- 職員の役割と学びへの関与
  - ①学生健康や生活上の安全確保（**課外**）
  - ②都市での経験学習のサポート（**準正課**）  
例）エンパナーダづくり、ゴミ問題プロジェクト
  - ③「居住地に根ざした課題」のサポート（**正課**）
- 求められる資質
  - 多様なバックグラウンドと高いソーシャルスキルをもつこと
  - 滞在都市での文化・歴史に通じていて、豊富なネットワークをもっていること

# 教職員の役割と協働

## ● ミネルバ大学での学び

- その特徴のひとつは、**都市をキャンパスにすること**
  - 授業をオンラインで行いつつ、都市のリソースを活用した学びを展開したい

その実現のために必要な組み合わせとは？

## ● 教員の特質

- 授業はすべてオンラインのため、様々な地域から優秀な教員を採用できる
  - 居住地に根ざした課題を考案するが、**学生が滞在する都市にはいない**

## ● 学生生活スタッフの特質

- 学生生活のサポートを主としながら、学生の学びにも関与する
  - **学生が滞在する都市に居住**しており、その都市のことをよく知っている

オンライン

ローカル

教員

居住地に根ざした課題を考案



学生生活スタッフ(職員)

課題実現に必要なリソース確保

オンラインとローカルを融合させた、教職協働による学びの実現



Kyoto University Graduate School of Education  
Higher Education Studies Course

# キャンパスから自由になる学び —日本での可能性—

# 日本の大学へのインパクトは？

---

## ● アメリカの高等教育の抱える問題(再)

- ①大学が、卒業後の社会や生活に対して準備できた状態にまで学生を育てられていないこと
- ②大学教育があまりに高額になり、ほとんどの学生が負債を抱えて卒業していること
- ③半数以上の学生が卒業できておらず、卒業できたとしても十分、授業に関与できていないこと
- ④入学者選抜において、国籍、人種、社会経済的地位、レガシー(卒業生の近親者)など、本人の能力以外の要因で定員枠が設けられていること

## ● 日本の大学教育の問題

- ④以外は、多かれ少なかれ日本の大学にもあてはまる(とくに①)
- では、ミネルバ大学の試みは、日本の大学にどのようなインパクトを与えるか？

# すでにみられる影響

## ● 高等教育政策

### ● 大学設置基準の改正(2022.9)

#### ● 「教育課程等に関する特例制度」

(例)「遠隔授業の60単位上限」「校地・校舎面積基準」などの適用除外

## ● 大学

### ● 通信制大学

#### ● ZEN大学: オンライン授業+地域・企業と連携した課外プログラムなど

#### ● さとのば大学: 別大学の通信教育課程+地域を巡りながらPBL

### ● 通学制大学

#### ● 清泉女子大学地球市民学科:

「101のコンセプト」+海外フィールドワーク

コンセプトの一部(大学HPより抜粋)

批判的 思考力	1.「目的」 2.「行動規範」 3.「ヒューリスティック」 4.「ギャップ分析」 5.「認知バイアス」など	創造的 思考力	1.「バックキャスト」 2.「デザイン思考」 3.「逆転思考」 4.「観察」 5.「アルゴリズム」など
関係 構築力	1.「ナッジ」 2.「共有地のジレンマ」 3.「リーダーシップ」 4.「同調圧力」 5.「レジリエンス」など	情報 発信力	1.「聴衆」 2.「言語表現のジャンル」 3.「表情」 4.「身体表現」 5.「芸術」など

# ミネルバから何を学ぶか

## ● ミネルバ大学

- アメリカの高等教育の抱える問題に対し、常識を問い直して、大学を構成するそれぞれの要素を見直し、テクノロジーの力を最大限に活用して「**新結合**」(＝イノベーション)を創り上げた

[ミネルバ大学って]全然万人向けの大学ではないなと思います。……本当に合う人にめっちゃめっちゃいい教育を、少しずつ少人数で、そのモデルを広げていこうっていう大学なので……(学生A、卒業後のインタビュー)

## ● 日本の大学

- ミネルバの表面的な模倣にとどまらず、大学入学者の減少の時代にあって、**自分たちの新結合**を生み出すことにつなげる
  - キャンパスをもつ通学制大学にとって「キャンパスから自由になる学び」とは？  
…逆に、「**キャンパスがあるからこそできる学び**」とは何か？
  - 教育以外の機能をもつ大学の必要性  
…ミネルバは一般的な研究大学の存在を前提にして成り立つ大学